

編集後記

「文学論叢」第七十一輯をお届けする。

前号刊行以来この間、文学会他の活動としては、慣例の講演会を開催した。十月七日には、宮沢哲男氏「西オーストラリアの水文環境と景観」・新形信和氏「帰ってきて見た日本」の講演が、十月二十八日には、内村剛介氏「敗戦と亡命」の講演が、それぞれ盛況のうちに行われた。また、来る十二月九日には、板倉桐音・栗原光政両先生の停年退職記念講演会もすでに企画されている。

こうした文学会の行事の他に、会員としては、さらに記念すべきことがある。それは、萬葉学会全国大会（十月十六日、十七日）と、日本英文学会中部地方支部大会（十月二十四日）と、東南アジア史学会秋季大会（十一月十一日、十二日）との本学における開催である。萬葉学会では、久曾神昇氏の「万葉集における『清水』の訓」・津之地直一氏の「万葉集訓義私按続編」・小島憲之氏の「上代文学勸工場——私なりの学問——」、以上三氏の講演と、井野口孝氏「『萬葉代匠記』所引の漢籍をめぐる」他七名の研究発表が行われた。日本英文学会では、中野美知子氏「多義語獲得と近似度直観についての一考察」他十七名の研究発表、J・マクドネル氏、I・コスビー氏、J・ハミルトン氏の「英語教育における外国人教師の役割」と題するシンポジウム、柳文章氏の「翻訳語と翻訳文化」と題する特別講演が行われた。また、東南アジア史学会では、鈴木中正氏を中心とする「ヘシンポジウム」東南アジアの民衆運動」や山本達郎氏「国朝刑律にみえる貶資」他三名の研究発表が行われる予定である。全国レベルの学会を次々に本学のような地方にある大学に招くことができたのも、ひとえに会員諸氏の旺盛な研究活動の一つの成果といつてよく、このこともともに喜びとしたい。

昭和五十七年十一月十五日印刷
昭和五十七年十一月二十日発行

（非売品）

編者 愛知 大學 文學會

代表者 牧野 由朗

豊橋市町畑町

印刷所 キリスト教印刷株式会社

豊橋市町畑町

発行所 愛知 大學 文學會

振替名古屋 三一四五六五四